

「人別送り状を読む」解説

1 資料について

(1) 新井(侂)家について

新井(侂)家：伊勢国八田城の落人である山ノ井氏の末裔^{まつえい}の山ノ井小八郎正堯が、松山城に仕えた新井忠左衛門の婿となって新井八郎左衛門と称し、その子の左京義清が新井氏の祖となったと伝える。初代から四代の十郎右衛門までは、幕府代官伊奈氏や中川八郎左衛門支配下の割元名主として活躍した。その後の当主も代々名主を務め、近代に入ると十二代の恭明は県会議員や南吉見村長として地域の政治や経済界で活躍した。

(2) 新井(侂)家文書

新井(侂)家文書：横見郡久保田村(現在の比企郡吉見町久保田)の名主を務めた新井家に残された全点約 20,000 点に及ぶ文書群。年貢、村政、水利・治水などに関するものが充実しており、支配関係が分かる世襲名主の文書である。また、第七代当主野松(宇左衛門)が在郷俳人として活動していたため、俳人間の交流がうかがえる書状や歳旦^{さいたん}が多いことも特徴である。

(3) 文書の大意

右の者(わき)は当村の百姓園吉の姉です。そちらの村の清七殿の仲人で組下の喜兵衛の妻になることは間違いありません。もともと、園吉は、禁止されている宗派、キリスト教等の信者の一族ではありません。当村の宗門人別帳から除きます。そちらの村の宗門人別両帳に載せて下さい。後日の為、送り一札は前記の通りです。

2 送り一札等について

(1) 送り一札

- 江戸時代、縁組や引っ越しなどで住居を移動する場合、当人の続柄、移動理由などを記し、切支丹でないことを証明した送籍状で移動先の名主へ送った文書。今回の講座における資料は、大串村の娘わきが久保田村の喜兵衛に嫁いだことによる人の移動を記した文書である。

(2) 人別改帳

- 人別改帳は、江戸時代中期に宗門人別改で宗門改帳と人別改帳が統合された民衆調査のための台帳。江戸時代の人口調査票であり、現在でいう戸籍原簿や租税台帳にあたるもので、宗旨人別改帳とも呼ばれる。村人の戸籍は「人別改帳」や「宗門人別改帳」により寺の檀家として把握されていた。婚姻や養子縁組などで村を出る場合に

は、実家の旦那寺から抜け、縁組み先の檀家として登録される際に送り一札という文書が作成され届けられた。手続きが完了すると元の村に落着^{おちつき}一札が送られる。名主は領主の支配機構の末端に連なる村役人で、名主にとって人の移動に関する正確な把握と人別帳への記載は重要な職務の1つである。

(3) 結婚

- 江戸時代の結婚は、単に1人の男と1人の女の結びつきという意味をはるかにこえて、それぞれの男女の所属する「家と家との結婚」として位置づけられていた。中世から武士を中心に「家と家との結婚」はみられ、江戸時代にはそれが庶民層にまで広く浸透していた点に特色がある。この時代には、家というものは子々孫々にいたるまで受け継がれていくべきものという意識が形成されていたからにはほかならない。

(4) 離婚

- 江戸時代には、離縁の決定権は夫に属していたため、妻からの離縁状を出すという事は許されていなかった。その上どのような理由があっても、離縁状なくしては再婚はおろか処罰もされる世の中であった。一般に「三くだり半」といわれる離縁状は、場所によって「離縁状・去状・暇状」などと呼ばれ、いずれも三行半で書かれるのが通常であった。ここに書かれる文言については、誰でも書けるように雛形があったと考えられている。「何方へ縁付候共我等方ニおいて一切申分無御座候」どこの誰と再婚しようと私には一切異論はありません、という言葉は必須だったようだ。【参考：S63 第12回収蔵文書展「みくだり半～江戸時代の家と女性～」】

(5) 語句の解説

類族（るいぞく）・・・親族、一族、同族

割元名主（わりもとなぬし）・・・複数の村を治める名主。年貢、諸役などの割り振り、指令などを出す。

実正（じっしょう）・・・偽りのないこと。まちがいがいいこと。確かなこと

※江戸時代の古文書に頻出する候文（そうろうぶん）の例

- 候者→そうろうは（〇〇であることは）
→そうらわば（〇〇であるならば）
- 候得者、候へハ→そうらえば（〇〇であるからには）
- 候得共、候へ共→そうらえども（〇〇であるけれども）

※候の下につく文字

- 申間敷候故→もうすまじくそうろうゆえ（申しませぬので）
- 御座候節→ござそうろうせつ（〇〇のとき）
- 取極候処→とりきめそうろうところ（取り決めたのに、取り決めたところ、取り決めた場合）

- ・申付候条→もうしつけそうろうじょう（申しつけたのに、申しつけるによって）

○参考文献

- ・浅井潤子編『暮らしの中の古文書』（吉川弘文館、1992年）
- ・平成7年度第1回収蔵文書展『入間地方の文書』（埼玉県立文書館、1995年）
- ・『新井（尙）家文書目録』（埼玉県立文書館、2013年）
- ・竹内誠監修『地図・グラフ・図解でみる 一目でわかる江戸時代』（小学館、2004年）
- ・氏家幹人著『かたき討ち 復讐の作法』（中公新書、1883年）